

平成30年度北九州市立徳力小学校学校経営方針（グランドデザイン）

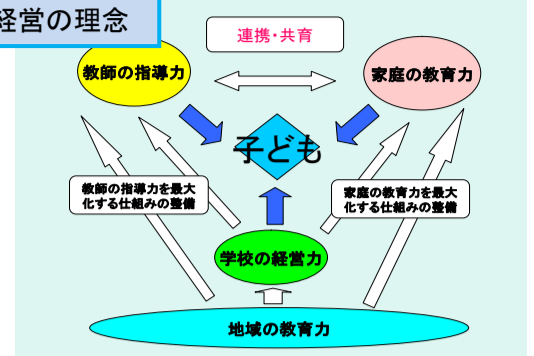
＜学校自己評価からとらえた主な教育課題＞

- ① 自分の考えを進んで言える児童の育成
- ② 自ら課題に取り組み、解決しようとする児童の育成
- ③ 分かる授業の構築
- ④ 個に応じた指導、基礎学力の定着
- ⑤ 気持ちの良い挨拶ができる児童の育成
- ⑥ 自己肯定感、自尊感情の高揚

学校教育目標

心身ともに健全で
自ら学び実践力のある
児童の育成をめざす

学校経営の理念



目指す学校像

- 人権尊重を基盤にし、一人一人の健やかな育ちのために全職員が結集し、協働する学校
- 説明責任・結果責任を果たし、子どもや保護者、地域の方々から信頼される学校
- 安全・安心で、元気・活力のある学校

目指す子ども像

- 進んで学ぶ子ども（いきいき）
- 心豊かな子ども（にこにこ）
- たくましい子ども（もりもり）

目指す教職員像

- 子どもや保護者の願い・思いに真摯に応える教師
- 一人一人に愛情を注ぎ、子どもの良さと意欲、力を引き出す教師
- 1時間の学習指導を大切に、楽しくわかる授業づくりを行う教師
- 自覚・責任・意欲をもって業務を遂行する教師
- 実践的な研修により、企画力・実践力・指導力向上を図る教師
- 学校教育への信頼と理解・協力が得られるように、家庭や地域・関係機関と連携を密にする教師
- 服務規律を遵守する教師

4つの重点目標及び具体的な方策

1. 「いきいき・にこにこ・もりもり」を合言葉に日々の教育活動を展開し、教育目標の具現化を図る

2. 積極的な生徒指導の推進と一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

3. 保護者や地域との情報連携及び行動連携の推進

＜いきいき＞

- ①学習規律の徹底
- ②わかる授業の実践
- ③スクールプランに基づく学力向上
 - ・自分の考えを書く活動を取り入れた授業展開
 - ・発表モデルの活用
 - ・話し合い活動の充実・工夫
 - ・家庭学習の習慣づけ
- ④進路保障のための基礎学力の定着
 - ・パワーアップタイムの活用
 - ・学力定着サポートシステムの活用
- ⑤特別支援教育の推進
 - ・個に応じた指導の充実
 - ・一人一人を大切に教育
- ⑥朝自習の徹底
- ⑦読書・音読の習慣化
 - ・学校図書館・学級図書等の充実
- ⑧資質向上のための研修の充実
 - ・学力向上研修
 - ・学力・体力向上推進委員の活用
 - ・若年研修の活用

＜にこにこ＞

- ①人権教育、平和教育の推進
 - ・「子どもつながりプログラム」の活用と自己肯定感の育成
 - ・「いいところみつけ」を通しての学校での居場所づくり
 - ・平和に関する指導及び平和集会の充実
- ②あいさつ運動の推進
- ③黙々掃除の徹底
- ④DVD教材・新刊いのち・北九州道徳郷土資料を活用した道徳の授業
- ⑤たてわり活動の充実（たてわり遊び、なかよし集会）
- ⑥年長者とのふれあい活動の取り入れ（総合・生活科等）

＜もりもり＞

- ①体育科授業「パワーアッププラン」を活用した授業実践
 - ・主題研修を通して、体力向上のための授業改善
- ②スクールプランに基づく体力向上
 - ・週200分の運動の実践
 - ・縄跳びタイムの実施
- ③基本的な生活習慣の定着（早寝・早起き・朝ごはん）
- ④健康教育・食育の推進
 - ・薬物乱用防止
 - ・性教育
 - ・生きた教材である給食を主とした指導
 - ・アレルギー対応

- ①危機管理体制・対応の徹底
 - ・児童アンケート（学期に1回と教育相談の実施）
 - ※いじめアンケート（市教委）
 - ・特別な支援が必要な児童の個別支援ファイル作成と活用
 - ・生徒指導部会による情報共有
 - ・防災教育の充実
 - ・危機管理の「サシセソ」
 - ・「一つ上」の対応
 - 連絡帳→電話→家庭訪問
 - ・「ほう・れん・そう」
 - ・児童のけがについては必ず報告
- ②関係機関及びSC、SSWとの連携（ケース会議の活用）
- ③教職員の協働体制の更なる充実→個々の指導力向上へ
- ④全職員と全児童の名札着用
- ⑤「とくりき小生活のきまり」についての共通理解と徹底
- ⑥中学校と連携した生徒指導

- ①学校からの情報発信の強化（学校通信・学年通信・保健だより・給食だより、HP、メール配信など）
- ②保護者・地域と連携した土曜日授業
- ③地域のよさを生かした総合的な学習の時間・生活科の学習活動の創造
- ④広徳中・広徳小との連携
- ⑤スクールヘルパー・生活安全パトロール隊と連携した安全指導や事件・事故防止に関する取組の充実
- ⑥PTA・地域行事へ児童や教職員の参加促進
- ⑦とっくんリキッズとの連携
- ⑧地域と連携した人権教育
 - ・広徳中学校区人権教育推進協議会
 - ・徳力地域交流センター管内人権教育推進研究協議会

4. 学校評価システムを活用した学校経営力の強化と校務支援システムの円滑な実施

【学習規律の徹底】

- ①チャイムがなったら席に着く
- ②学習用具を忘れない
- ③学習中、席を離れない
- ④友だちの発表、先生の指示は顔を向けて聞く
- ⑤発表の仕方、聞き方を学ぶ
- ⑥宿題を忘れない
- ⑦自分の回りを整理する

- ① 学校経営ビジョン（スクールプラン）の共有とPDCAサイクルに基づいた学校評価の実施と組織的・継続的な改善 ※学期末実施
- ② 情報の積極的な提供や評価結果の効果的な公表
- ③ 学校関係者評価委員会（学校評議員会 6月、11月、2月）との連携
- ④ 校務支援システムでの円滑な対応と実施（教頭・教務を中心に）
※負担軽減→成績・会計業務の事務軽減の推進、電子データの活用。

- ◆ 校務分掌業務の見直し（目標→分担業務の15%を削減）
- ◆ 公務員は、全体の奉仕者である。保護者や市民に対して誠実な対応に努める。（来校者への温かいマナー）
- ◆ 外部からの電話等による児童の呼び出しや照会には原則として応じない。（迷ったら管理職に一報する。）
※電話の対応…「徳力小学校の〇〇です。」→アカウンタビリティー（説明責任と信頼関係）
- ◆ ワーク・ライフ・バランス…健康管理、仕事以外の時間の充実、家族との時間の充実→趣味をもとう！！
※20：00以降残業をしないように！！
※定時退校日…毎月2回の実施の徹底、仕事の割振